



平成25年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年2月1日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブレインパッド

コード番号 3655 URL <http://www.brainpad.co.jp/>

代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）草野 隆史（戸籍名：高橋 隆史）

問合せ先責任者 （役職名）取締役 （氏名）池田 直紀 TEL 03-5791-4210

四半期報告書提出予定日 平成25年2月8日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成25年6月期第2四半期の連結業績（平成24年7月1日～平成24年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
25年6月期第2四半期	893	—	68	—	55	—	31	—
24年6月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）包括利益 25年6月期第2四半期 31百万円（－％） 24年6月期第2四半期 一百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年6月期第2四半期	4.82	4.70
24年6月期第2四半期	—	—

（注）

1. 平成25年6月期第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成24年6月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 当社は平成24年12月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
25年6月期第2四半期	1,255	1,016	80.9
24年6月期	—	—	—

（参考）自己資本 25年6月期第2四半期 1,015百万円 24年6月期 一百万円

（注）平成25年6月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成24年6月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年6月期	—	0.00	—	—	—
25年6月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成25年6月期の連結業績予想（平成24年7月1日～平成25年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	2,470	—	377	—	329	—	197	—	30.03

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

1. 平成25年6月期第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

2. 当社は平成24年12月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年6月期2Q	6,585,944株	24年6月期	6,568,660株
② 期末自己株式数	25年6月期2Q	34株	24年6月期	ー株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年6月期2Q	6,583,830株	24年6月期2Q	5,864,272株

(注) 当社は平成24年12月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。株式数は、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当社は、平成25年6月期第1四半期連結会計期間に子会社を設立したため、平成25年6月期第1四半期決算より四半期連結財務諸表を作成しております。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

3. 四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(6) セグメント情報等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、当期の第1四半期累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っておりません。

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済の減速を背景とした輸出の減少や個人消費の停滞等により、景気の後退局面が続きました。国内のITサービス市場は、製造業や通信業におけるITシステム投資が堅調に推移する一方、企業収益の悪化による設備投資への慎重姿勢もみられ、市場の成長は緩やかなものに留まりました。

このような中、当社は、「ビッグデータ」トレンドを受けたIT投資の増加と、企業内におけるデータ活用意欲の高まりを受け、当社が取り扱うBI（注1）・BA（注2）ツールおよび分析ノウハウを活かした汎用的なサービスソリューションの販売促進に引き続き注力いたしました。また、当期を「投資の1年」と位置づける中で、各事業において、中長期的な成長を実現するための土台作りを推し進めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は893,102千円、営業利益は68,307千円、経常利益は55,586千円、四半期純利益は31,720千円となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

(アナリティクス事業)

アナリティクス事業は、企業の有する大量データを分析するデータマイニングと、その分析結果に基づく企業行動の最適化支援を、幅広い顧客向けに提供している当社グループの主要事業であります。

当第2四半期累計期間におきましては、営業部門との連携を強化し、データ分析の受注促進に向けたプリセールス（注3）を行うとともに、安定的なサービス提供に取り組みました。

一方、今後のビッグデータ分析の需要拡大に伴い分析案件が多様化することを想定し、第1四半期に戦略的な配置異動を行ったデータ分析官を中心として、クラウド化による社内の分析環境の改善や、分析官の継続的な採用・育成の実現に向けた施策の立ち上げ等に着手いたしました。

この結果、売上高は314,927千円、セグメント利益は108,787千円となりました。

(ソリューション事業)

ソリューション事業は、顧客企業に対して、データ分析および分析結果に基づくマーケティング活動に必要なソフトウェアのライセンス提供とシステム開発を行っております。

当第2四半期累計期間におきましては、当事業の主力製品である「smartFOCUS」（マーケティング・オートメーション・ソフトウェア）を中心に顧客数は増加傾向にあり、受託開発案件の増加も売上に寄与いたしました。

この結果、売上高は284,266千円、セグメント利益は50,768千円となりました。

(ASP関連事業)

ASP関連事業は、当社が着目したデータ分析系のアルゴリズムから独自性の強いソフトウェアを自社開発し、ASPによる顧客企業への提供と、その保守業務等を行っております。

当第2四半期累計期間におきましては、独自性の強い主力の2つのサービス「Rtoaster」（Webプラットフォーム・レコメンドエンジン）、「L2Mixer」（リスティング広告の最適化ツール）の機能追加に取り組み、ストックビジネスの伸長による売上増と安定的な利益確保に注力いたしました。このうち、「Rtoaster」については、新たにインターネットサービス事業者より大型案件を受注しサービス提供を開始するなど、堅調に推移しております。

この結果、売上高は293,907千円、セグメント利益は128,418千円となりました。

（注1）ビジネスインテリジェンス（Business Intelligence）の略。企業等の組織のデータを、収集・蓄積・分析・報告することで、経営上の意思決定に役立てる手法や技術のこと。

（注2）ビジネスアナリティクス（Business Analytics）の略。企業等の組織のデータを最大限に活用し、将来起こり得る事態を予測することによって、経営上の意思決定に役立てること。

（注3）システムの構築やソフトウェア製品の販売・導入の際に、営業担当者に同行し、技術的な知識を用いて営業担当者をサポートすること。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 財政状態の分析

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、1,255,016千円となりました。

流動資産の残高は、877,593千円となりました。主な内訳は、現金及び預金が526,725千円、受取手形及び売掛金が268,119千円であります。また、固定資産の残高は、377,422千円となりました。主な内訳は、有形固定資産が84,026千円、無形固定資産が235,432千円、投資その他の資産が57,963千円であります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、238,276千円となりました。流動負債の残高は、217,328千円となりました。主な内訳は、未払費用が69,008千円、前受収益が40,438千円、買掛金が27,892千円であります。また、固定負債の残高は、20,948千円となりました。主な内訳は、長期借入金が15,847千円であります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、1,016,739千円となりました。主な内訳は、資本金が326,678千円、資本剰余金が303,378千円、利益剰余金が385,214千円、少数株主持分が1,490千円であります。この結果、自己資本比率は80.9%となりました。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、426,725千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、124,791千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益55,586千円、売上債権の減少額136,216千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、114,216千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出21,959千円、無形固定資産の取得による支出77,157千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、10,723千円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出13,358千円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の第1四半期会計期間において、連結子会社 株式会社ブレインパッドビジネスオペレーションズを新たに設立したため、第1四半期累計期間より連結財務諸表を作成しております。しかしながら、子会社設立に伴う当期の連結業績に与える影響は軽微であるため、平成24年8月9日公表の個別業績予想の金額を連結業績予想として開示しております。

通期業績予想につきましては、本年1月24日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、第2四半期よりずれ込んだ案件の受注、および、昨今のビッグデータ市場の成長によるB I・B A製品の需要拡大を背景に、ソリューション事業において前期に比べ5割程度の売上増を見込むことから、予想数値の修正はいたしません。

また、本日付にて、別途「連結子会社による中国現地法人設立に関するお知らせ」を公表いたしました。この現地法人設立は、中長期的には連結業績に寄与する見込みですが、当期の連結業績に与える影響は軽微であります。

(業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。そのため、経済環境をはじめとする様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。)

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、第1四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社ブレインパッドビジネスオペレーションズを連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間末
(平成24年12月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	526,725
受取手形及び売掛金	268,119
仕掛品	7,750
繰延税金資産	2,828
その他	72,168
流動資産合計	877,593
固定資産	
有形固定資産	84,026
無形固定資産	
ソフトウェア	199,046
その他	36,385
無形固定資産合計	235,432
投資その他の資産	57,963
固定資産合計	377,422
資産合計	1,255,016
負債の部	
流動負債	
買掛金	27,892
1年内返済予定の長期借入金	9,996
未払金	25,813
未払費用	69,008
前受収益	40,438
未払法人税等	22,289
その他	21,890
流動負債合計	217,328
固定負債	
長期借入金	15,847
その他	5,101
固定負債合計	20,948
負債合計	238,276
純資産の部	
株主資本	
資本金	326,678
資本剰余金	303,378
利益剰余金	385,214
自己株式	△23
株主資本合計	1,015,248
少数株主持分	1,490
純資産合計	1,016,739
負債純資産合計	1,255,016

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	893,102
売上原価	478,888
売上総利益	414,214
販売費及び一般管理費	345,906
営業利益	68,307
営業外収益	
受取利息	49
受取配当金	452
その他	28
営業外収益合計	530
営業外費用	
支払利息	640
支払手数料	12,200
その他	410
営業外費用合計	13,251
経常利益	55,586
税金等調整前四半期純利益	55,586
法人税、住民税及び事業税	20,506
法人税等調整額	3,368
法人税等合計	23,875
少数株主損益調整前四半期純利益	31,711
少数株主損失(△)	△9
四半期純利益	31,720

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	31,711
四半期包括利益	31,711
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	31,720
少数株主に係る四半期包括利益	△9

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自 平成24年7月1日
至 平成24年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	55,586
減価償却費	64,436
受取利息及び受取配当金	△501
支払利息	640
売上債権の増減額 (△は増加)	136,216
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,290
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,349
未払金の増減額 (△は減少)	6,926
未払費用の増減額 (△は減少)	△18,153
前受収益の増減額 (△は減少)	640
その他	△20,790
小計	224,061
利息及び配当金の受取額	501
利息の支払額	△649
法人税等の支払額	△99,123
営業活動によるキャッシュ・フロー	124,791
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△21,959
無形固定資産の取得による支出	△77,157
投資有価証券の取得による支出	△20,100
敷金及び保証金の回収による収入	5,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△114,216
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	400,000
短期借入金の返済による支出	△400,000
長期借入金の返済による支出	△13,358
新株予約権の行使による株式の発行による収入	1,158
連結子会社設立に伴う少数株主からの払込による収入	1,500
自己株式の取得による支出	△23
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,723
現金及び現金同等物に係る換算差額	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△149
現金及び現金同等物の期首残高	426,875
現金及び現金同等物の四半期末残高	426,725

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

当第2四半期連結累計期間（自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アナリティクス事業	ソリューション事業	A S P 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	314,927	284,266	293,907	893,102	—	893,102
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	314,927	284,266	293,907	893,102	—	893,102
セグメント利益	108,787	50,768	128,418	287,975	△219,667	68,307

(注) 1 セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用219,667千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門等における一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。